４月２５日　　**テーマ：導いてくださる神さま**

聖書箇所：出エジプト記１３章１７～２２節

◆今日のみことば

“昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れなかった。”

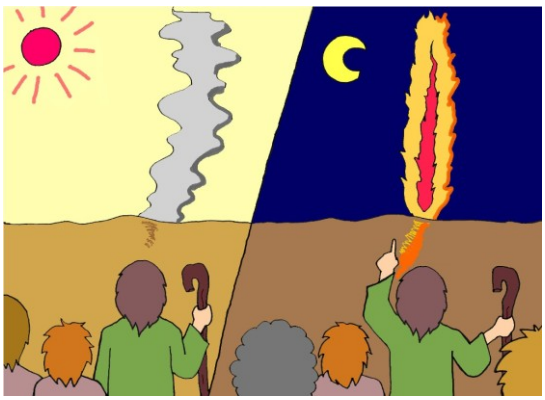
出エジプト１３章２２節

◆メッセージ

みんなはお父さん・お母さんからお使いを頼まれたことがありますか。子どもの頃、お金と手書きの地図と買う物を書いた紙を手渡され、ドキドキしながら八百屋とお肉屋に行ったことを今でも覚えています。なんだか心細くて、道を間違えていないか何度も確認したり、通りがかりの人に道を聞いたりして、やっと目的地にたどり着いた時はとても嬉しかったものです。

大人の人たちの多くはスマートフォンを持っています。これは便利な道具で、声に従って進むと知らない場所でもちゃんと目的地まで連れて行ってくれる優れものです。だからスマートフォンをなくしたら大変です。どこをどう行ったらいいのか判らず慌ててしまうことでしょう。

モーセさんがいた頃はまだスマートフォンはありません。地図もなければガイドもいません。高い建物もない、何もない、広い荒野をイスラエルの人たちはひたすら四十年も歩き続けました。でもモーセさんたちは迷いませんでした。なぜならモーセさんたちの前には昼は雲の柱、夜は火の柱がいつもあってそれらが目印になっていたからです。途中で消えたり見えなくなることもありませんでした。天と地をつくられた神さまが雲の柱と火の柱になってこっちだよと導いてくれたのでモーセさんたちは安心して進むことができました。



この頃はよくスマートフォンを手にする大人の人たちをよく見かけます。朝起きたらスマートフォンを見、家にいても電車に乗っていてもネットばかりをやっている大人たちは本当に神さまを頼っているとは思えません。せっかく神さまがこっちだよと言っているのに、ネットの言うことばかりを頼っているようでは神さまが悲しみます。イエスさまも「わたしに従いなさい」と言っています。まず神さまの言うことに従わなくてはなりません。今は雲の柱や火の柱は見えませんが、私たちの持っている聖書こそが雲の柱であり火の柱です。これから大人になり、いろいろなことがあると思いますが、神さまがこっちだよと導いておられる道へ進んでいきましょう。

◆お祈り

「神さま、これからも雲の柱・火の柱となって聖書の御言葉で私たちを導いてください。そして安心して従うことができますようにお祈りします。」

（湯本キリスト福音教会牧師　山本信義）